



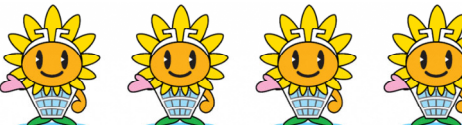

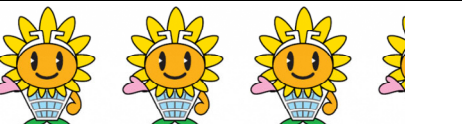

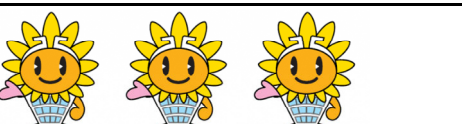




■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州\_2014(v2.0)

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)北九州市小倉北区魚町三	BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	---	------

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.7 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.8 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	3.3 /5		ふつう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
* 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)	
<b>1 循環型社会への貢献</b>		スコア平均 3.7	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 4.1	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.6 スコア 3.4
<自由記述>		<自由記述>	
<b>2 地球温暖化対策の推進</b>		スコア平均 3.8	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.6	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 4
<自由記述>		<自由記述>	
<b>3 豊かな自然環境の確保</b>		スコア平均 3.3	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 3	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 4 スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
<b>4 高齢社会への対応</b>		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	<b>主な指標</b>	
<自由記述>		建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級 0.96	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEI値、住宅: - 0.77	
		外構緑化指数 35.2 %	
		建物緑化指数 10.3 %	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北九州市小倉北区魚町三丁目	階数	地上13F
建設地	福岡県北九州市小倉北区魚町三丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,600 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・飲食店	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2021年9月14日
敷地面積	1,255 m <sup>2</sup>	作成者	清水建設
建築面積	866 m <sup>2</sup>	確認日	2021年9月15日
延床面積	9,854 m <sup>2</sup>	確認者	金澤陽一



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 3.4**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.4**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>室内環境、サービス性能への配慮。</li> <li>敷地内外環境への配慮。</li> <li>エネルギー、資源マテリアルの確保に努めている。</li> </ul>	その他
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>遮音性能への配慮。</li> <li>昼光率への配慮。</li> <li>十分な換気性能を確保している。</li> </ul>	Q2 サービス性能
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>BPlm=0.96</li> <li>BEIm=0.77</li> </ul>	Q3 室外環境(敷地内)
	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
	<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル材を多用している。</li> <li>OAフロアの採用等、解体時のリサイクルに配慮。</li> <li>防水工事のプライマー採用等、化学物質の採用削減に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10%以上の外構緑化を行い、中高木を設置している。</li> <li>LCCO<sub>2</sub>排出率=70%。</li> </ul>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)北九州市小倉北区魚町三丁目**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

スコアシート		基本設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.2</b>	0.15	-	-	<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル	-	<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	-	3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能	-	3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音	天井:岩綿吸音板、床:タイルカーペット	<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.3</b>	0.35	-	-	<b>3.3</b>
2.1 室温制御		<b>3.7</b>	0.50	-	-	
1 室温	-	3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	-	3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	ゾーン毎に冷房・暖房の選択が自由	5.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御	-	<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
2.3 空調方式	-	3.0	0.30	3.0	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.8</b>	0.25	-	-	<b>3.8</b>
3.1 昼光利用		<b>3.5</b>	0.32	-	-	
1 昼光率	昼光率 2.231%	4.0	0.59	3.0	-	
2 方位別開口	-	-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	-	3.0	0.41	3.0	-	
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.29	-	-	
1 昼光制御	-	3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	全般照明方式の場合で、照度500lx以上1000lx未満	<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
3.4 照明制御	1作業単位で照明制御可能、調節可能、明るさセンサーでの自動調光	<b>5.0</b>	0.24	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気環境</b>		<b>3.8</b>	0.25	-	-	<b>3.8</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に使用	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
4.2 換気		<b>3.3</b>	0.30	-	-	
1 換気量	建築物環境衛生基準を満たす換気量の1.2倍(30CMH/人)で計画	4.0	0.34	3.0	-	
2 自然換気性能	-	3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.34	3.0	-	
4.3 運用管理		<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視	-	3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	13階喫煙室	5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.9</b>	0.40	-	-	<b>3.9</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.3</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	-	3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	OA機器用コンセント容量:50VA/㎡	4.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	-	3.0	0.35	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高:2.8m	4.0	0.34	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	屋上テラス98㎡>執務スペース計6660㎡×1%+各階にリフレッシュコーナー	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	-	5.0	0.34	3.0	-	
1.3 維持管理		<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	高防汚性の建材の採用	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	点検・維持管理が容易な位置にPS・EPS等の設備スペースを計画	4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.6</b>	0.30	-	-	<b>3.6</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.8</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	保有水平耐力の用途係数をI=1.25として計算	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	Pcaカーテンウォール、ECP	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:タイルカーペット、壁:クロス、天井:岩綿吸音板	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:SGP-VA、排水管・通気管:VP、FDP	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		<b>3.2</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	節水型衛生器具、節水コマ付水栓	4.0	0.20	-	-	
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	光ケーブル等の通信手段の多様化、通信機器の地上階設置他	3.0	0.20	-	-	

<b>3</b>	<b>対応性・更新性</b>		<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
	<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>4.6</b>	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高:4.1m	5.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1703	4.0	0.40	3.0	-	
	<b>3.2 荷重のゆとり</b>	床荷重:2.900N/m <sup>2</sup>	<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
	<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
<b>Q3</b>	<b>室外環境(敷地内)</b>		-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1</b>	<b>生物環境の保全と創出</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2</b>	<b>まちなみ・景観への配慮</b>	交差点という特徴を表現したWELLNESS&INTERACTION	<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3</b>	<b>地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	公開空地・屋上テラスを積極的に緑化、主要な建築設備はGL+10m	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR</b>	<b>建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1</b>	<b>エネルギー</b>		-	0.40	-	-	<b>3.1</b>
<b>1</b>	<b>建物外皮の熱負荷抑制</b>	BPI=0.96	<b>3.1</b>	0.20	-	-	<b>3.1</b>
<b>2</b>	<b>自然エネルギー利用</b>	-	<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3</b>	<b>設備システムの高効率化</b>	BEIm=0.77	<b>3.3</b>	0.50	-	-	<b>3.3</b>
<b>4</b>	<b>効率的運用</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
	集合住宅以外の評価		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
<b>LR2</b>	<b>資源・マテリアル</b>		-	0.30	-	-	<b>3.8</b>
<b>1</b>	<b>水資源保護</b>		<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
	1.1 節水	節水コマの取り付け、擬音装置の設置、節水型便器の採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2</b>	<b>非再生性資源の使用量削減</b>		<b>4.1</b>	0.60	-	-	<b>4.1</b>
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	既存躯体の一部を山留に利用	5.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	骨材、セメント、断熱材を特定調達品目から選定	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	外壁PCの採用	5.0	0.20	-	-	
<b>3</b>	<b>汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	接着剤、シーリング等	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3</b>	<b>敷地外環境</b>		-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1</b>	<b>地球温暖化への配慮</b>		<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2</b>	<b>地域環境への配慮</b>		<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器不採用	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>3.5</b>	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	適切な位置に駐車場・駐輪場を計画	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
<b>3</b>	<b>周辺環境への配慮</b>		<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	風害対策に対する要請なし	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	日影規制なし	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		<b>4.4</b>	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	夜間照明計画については事前に景観アドバイザー会議に提出	5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	